一般社団法人
サン・ビレッジ

児童発達支援　ことこと
支援プログラム　5領域のつながり

作成日　2025年
1月31日

営業時間：　12時30分から18時30分　　送迎の有無：（あり）・　なし

支援理念

発達の過程や特性等に応じた発達上のニーズ、適応行動の状況や特に配慮が必要な事項等を丁寧に把握し、合理的な配慮を提供する。
利用するすべてのこどもをありのままに受け止めて、こどもが自分らしく過ごせる場であるという安全・安心の土台の上で、総合的な支援を提供する。
こどものライフステージに沿って、関係者が連携を図り、切れ目のない支援を提供する体制を構築する。

健康状態

＜健康・生活＞
安心できる居場所

〇基本的スキルの習得
〇ADLスキルの獲得
〇時間と空間の構造化
〇マナーの習得
〇見通しを持った生活
〇持ち物の管理

☆検温チェックと消毒
☆目と目を合わせて挨拶
☆約束・ルールを守る
☆安全に配慮した環境整備
☆持ち物の置き場の視覚化
☆物を大切に扱う

支援方針

〇本人支援の５領域（「健康・生活」、「運動・感覚」、「認知・行動」、「言語・コミュニケーション」、「人間関係・社会性」）の視点等を踏まえたアセスメントを行う。
〇５領域の視点を網羅した支援（総合的な支援）を行うことに加え、専門性に基づきアセスメントを行い、５領域のうち、特定（又は複数）の領域に重点を置いた支援を計画的及び個別・集中的に行う。
〇こどもや家族の意向を受け止め、こどもと家族の安定した関係に配慮して、こどもの暮らしや育ちを支える。
〇こどもの育ちや家庭の生活の支援に関わる地域の関連機関との連携のため、「移行支援」「地域支援・地域連携」を行う。

職員の質の向上

〇研修計画の策定と実施及び機会の確保
〇発達特性に応じた適切な支援のための研修の実施
〇対応が難しいこどもや家族等、個別ケースへの支援の質向上の研修の実施

心身機能 身体構造

＜運動・感覚＞
身体の上手な使い方を身につける

〇感覚統合を促す粗大運動や微細運動
〇力加減や道具の扱い等の協調運動
〇手先の器用さ等協応動作
〇学習時の姿勢の保持

☆制作活動（折り紙・アイロンビーズ・豆つかみ等）
☆粗大運動（鬼ごっこ・サーキット・鉄棒・ボール遊び等）
☆感覚運動（眼球運動・体幹保持・ボディーイメージ・運動コントロール等）

活動

＜認知・行動＞
適切な判断と行動の習得

〇認知行動療法　〇空間認知
〇言葉や物の概念形成
〇見る力、聴く力、想像力、記憶力
〇スケジュールによる活動の見通し

☆指示の理解
☆スケジュールの意識化
☆ビジョントレーニング
☆コグニティブトレーニング
☆用具の正しい使い方と片付け

＜言語・コミュニケーション＞
円滑なコミュニケーションスキルの獲得

〇共同注意の獲得　〇意思の伝達
〇状況に応じたやりとり　〇自分を表現する
〇個に応じたコミュニケーション方法
〇特性に応じた読み書き能力の向上

☆特性に応じた言語支援・手本になる言葉遣い
☆自分なりの表現の保証（言葉・表情・描画）
☆特性に応じた読み書き支援
☆支援者や友だちとの遊びを通して会話を楽しむ
☆相手の受容と自己表現

参加

＜人間関係・社会性＞
良好な人間関係づくりと社会生活に必要なスキルの獲得

〇SST（順番、役割、ルール、約束等）
〇感情のコントロール　〇情動調整
〇仲間づくりや集団参加　〇相互理解と共感
〇勝ち負けを受け入れる

☆ありのままのこども受容
☆場に応じた適切な行動
☆ルールや順番を守り、友だちと仲良く活動する体験の積み重ね
☆遊びを通した楽しさの共有
☆遊びを通して勝ち負けの理解

個人因子

個性の尊重

・人権への配慮～人格と意見の尊重
・環境の整備～興味関心の拡がりと選択の保障

環境因子

移行支援

・在籍校や園との連携
・ライフステージの切り替えを見据えた移行先との連携

家族支援

・家族からの相談に対する助言
・障害の特性に配慮した家庭環境の整備

地域支援・連携

・地域の関係機関との連携